

学科名	経営ビジネス学科						
科目名	商業科教育法Ⅱ(教)						
科目区分	教職科目	単位数	2	開講時期	2年次後期		
必修・選択の別	選択科目(教職必修科目)						
担当者	濱田淳一						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業教育の歴史について述べることができる。</li> <li>・戦後の商業教育における教育課程の変遷について説明できる。</li> <li>・指導と評価の一体化の重要性を認識し、評価基準の設定の手順を身に付けている。</li> <li>・実践的指導力の基礎を培っている。</li> <li>・商業教育における人間性の大切さを理解し表現できる。</li> </ul>						
日程と内容	第1回：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、商業教育の芽生え 第2回：商業教育の始まり（明治1） 第3回：商業教育の始まり（明治2） 第4回：商業教育の発展（大正） 第5回：商業教育の試練（昭和戦前戦中） 第6回：商業教育の再生（昭和戦後1） 第7回：商業教育の再生（昭和戦後2） 第8回：商業教育の再生（昭和戦後3） 第9回：商業教育の改革（平成） 第10回：指導計画と授業展開 第11回：商業教育と人間形成（1） 第12回：商業教育と人間形成（2） 第13回：商業科教師への期待 第14回：商業教育の課題と展望 第15回：商業教育のまとめ						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	30%	計				100%
	演習						
授業到達目標の達成度	明治から現代まで商業教育の変遷については変化が多いが、理解はある程度達成できた。 また、商業教育と人間性の大切さは最も重要視し繰り返し話題にすることで、意識が図られたと思われる。						
反省点	商業に焦点をあてて歴史を追ったが、その時代の商業教育を理解することによって、現代の商業教育を考察することができることをもっと力説すべきであった。						
来年度の計画	過去の商業教育を考察することによって、現代の商業教育はどうあるべきかを考えていく講義にしていく。						
授業評価アンケートに対するコメント	授業評価アンケートは全体的に良い評価ではあったが、予習・復習をほとんどしていない点を鑑み、授業プリントや課題のあり方を再考する必要がある。						
履修登録者数	15名	定期試験 受験者数	15名	合格者数	15名	合格率	100%